

SNSのいじめ 危険ドラッグを自分たちの逃げ場にしない!
ぼくらの明日は、ぼくらがぼくらの手で守り、つくるんだ!

未来

—SNSの罠—



SNSには顔がない。表情がない。話し言葉のように伝わらない。
SNSで起きている、いじめ、危険ドラッグ情報へのアクセス…。
なのに、ぼくらは、私たちは、それをSNSの中だけで何とかしようとか、
考えてなかったかもしれない。



大事なのは、ぼくらの日常生活の言葉なんだ。
普段の互いのふれあい方なんだ。
SNSを上手に使うことは、ぼくらが普段の言葉とふれあいを相手
の立場になって使えているかどうかなんだ。

上映時間 18分 [C#7499]
DVD 本体価格 66,000円(税抜)



東映株式会社 教育映像部

〒104-8108 東京都中央区銀座3-2-17
<http://www.toei.co.jp/edu/>

企画 意図

いじめ、危険ドラッグ、違法サイトへのアクセス…。いまその温床となっているのが、SNS ともいわれています。不特定多数へ情報が発信でき、誰からのものかも、真偽も判然としない情報が児童、生徒の携帯端末に広がっています。その中で、子どもたち自身、SNS とどう付き合い、向き合っていくのかが問われています。本作品は、現役の中学生・高校生が SNS を利用して広がる、いじめ、危険ドラッグへのアクセスについて、その要因と自分たち生徒がとるべき対応について、体験を交え、話し合い、問題解決のヒントを探ります。

内容

(1) ディスカッション1 「SNS といじめ」

いじめの被害の体験がある生徒。学校の生徒中に広がった SNS のいじめのネットワークから抜けようとして被害に遭った生徒。最初からクラス全員が使っている SNS から省かれていた体験のある生徒…。

SNS といじめ体験を持つ生徒たちの話から、SNS といじめの関係、その要因を子どもたち自身が探ります。そして、SNS といじめを結びつけない為に何が必要かを自ら整理していきます。

SNS では、顔も、言葉の調子も伝えられない問題点。SNS の書き言葉はどの様にも言葉が一人歩きする危うさがあること。普段の学校生活での言葉の使い方、ふれあい方を見直すことの大切さを気づかせます。



議論テーマ

1. SNS といじめはどうしてつながってしまうのだろう。
2. SNS といじめ、止められないのはどうしてなのだろう。
3. SNS といじめをつながらなくするためには、何が必要なのだろう。

(2) ディスカッション2 「SNS と危険ドラッグ」

危険ドラッグの高額請求のサイトにアクセスしてしまった知り合い。「やせる」「目が覚める」「頭がすっきりする」といった女子生徒や受験生の心の隙間をつく、サイト情報が身近にある現実…。遠いことのように感じている危険ドラッグが実は、言葉を変え、顔を変え身近にあることを互いの体験から共有します。

いじめと同じように、はっきりとした認識もないまま、危険ドラッグに誘惑されてしまう。そこには、何があるのか…。

学校生活の中でのストレス、生活の問題。子どもたちは、心の弱さと片付けるだけではなく、その背景になるものを考え、やがて、自分を認められる機会、自分という人間が他の人と同じように大切な存在と感じられる、自尊感情を持つことが必要なのだと気づき始めます。



議論テーマ

1. じつは身近にある危険ドラッグへの誘惑。
2. 危険ドラッグのサイトへ行ってしまうのは、どうしてだろう。
3. 危険ドラッグに行かないために、自分たちには何が必要だろう。

(3) ディスカッション3 「ぼくたち、私たちの未来」

いじめのある学校生活、危険ドラッグの情報に振り回される生活…。それは、自分たちの明日をつくる大切ないまを無駄にすることにならないだろうか。自分たちの未来は、自分たちが自分たちの手でつくるもの。だから、情報に振り回されず、自分たちにとって大事なものは何かを考え、行動することこそ必要なのではないだろうか。

SNS がある社会を当たり前とするデジタル・ネイティブの子どもたちが、議論を通して、自分たちの未来をより良くする道は何かを提言します。



議論テーマ

1. 自分たちの今日、明日、そして未来のために、いじめ、危険ドラッグとどう向き合うか。
2. みんなの未来はどうつくり、どうあるべきなのだろう。